

北谷遺跡(高崎市)

説明板/5世紀後半から6世紀初頭の豪族居館跡/三ツ寺I遺跡の居館跡と規模・形態が類似しており、共通の規格で築造されたと想定されている

国指定史跡

きた やつ

北谷遺跡

Kitayatsu-iseki

北谷遺跡は、五世紀末に築造された、わが国を代表する古墳時代の豪族居館跡である。榛名山東南麓の湧水地帯に立地し、弁天谷と染谷川に挟まれた台地を大規模に加圧して構築された。

館の本体は一辺九〇mの方形で、上面は盛土により一m以上高く仕上げられていた。外縁の斜面には石積みが施され、各所に張り出しが設けられている。内部の発掘は今後の課題だが、一辺一二mの巨大な竪穴建物跡があることが分かっている。本体の周りには、幅三〇m、深さ三mもの濠が巡らされており、堤や堰などで水位を調整し、水を貯えていたらしい。さらに西濠の北西の外側には、幅二〇mの土手(外堤)も存在した。

本遺跡から南西三kmには、日本で初めて発見された豪族居館跡として有名な三ツ寺I遺跡(五世紀後半築造)がある。北谷遺跡と三ツ寺I遺跡は、規模と構造が類似し、時期も近いことから、同一の基本設計に拠ったと考えられる。したがって北谷遺跡にも、三ツ寺I遺跡と同様に、祭殿とみられる大型建物や、水を用いる祭祀施設があった可能性が高い。

北谷遺跡は、榛名山麓の河川や湧水を掌握し、水利支配を軸として農業経営を行った有力豪族の住まいであり、地域の祭祀拠点でもあったと考えられる。三ツ寺I遺跡とともに、わが国の古墳時代を代表する豪族居館遺跡であり、その歴史的価値はきわめて高い。



北谷遺跡航空写真(濠と谷を青色で表示)



発掘された張り出し部と石積み



史跡指定範囲(赤色の部分)

所在地 群馬県高崎市引間町字北谷六六三番地一ほか
指定面積 三五・九三二・九二㎡
指定年月日 平成一七(二〇〇五)年七月一四日
平成二九年(二〇一七)年九月二六日設置

高崎市教育委員会

居館の周囲には濠が巡らされ、居館からは張出や土橋が延びて外堤への通路となっている



北谷遺跡航空写真(濠と谷を青色で表示)

居館跡は平面が一辺90メートルの方形で、南側を除く三方には2箇所の張出がある

[video](#)



居館の南東隅で居館全体を見たところ

[video](#)



居館の東辺を見たところ/2箇所の張出がある



こんな感じで張出が残っている



反対側から見たところ



もう1箇所はこちら

[video](#)



反対側から見たところ



正面は居館から東方向に延びる土橋/東側と北側の濠は土橋によって隔てられていて、北側と西側の濠には水が貯えられていたらしい



右手に東濠を見たところ/濠の中に住宅が建ってしまった



左手に北濠を見たところ

 video



こちらは北濠の張出の一つ/右手が北濠



その張出を北方向に見たところ

[video](#)



西側から居館を見たところ

[video](#)



これは南西側から居館を見たところ

[video](#)



右手が居館で左手は西濠/西側の張出は道路で削られてしまった

[video](#)



西濠を見たところ/左端の建物が建っている一段高い場所は外堤

[video](#)



西濠越しに外堤を見たところ

 video



正面は北濠/右手が居館

[video](#)



北濠越しに居館を見たところ/右手の民家の所から北濠への大きな張出があって堰を設けていたようだ

[video](#)



